

財六甲台後援会だより (19)

出光佐三記念六甲台講堂の完成

前号でもご報告しました六甲台講堂の修復が完了し、10月31日(土)、神戸大学の第4回ホーム・カミングデイの式典がその修復成った講堂の最初の行事として挙行されました。皆さんの記憶に残っている中山正實画伯の壁画も見事に修復されました。汚くなっていった壇壇も、座席も全く立派になり、冷暖房完備の講堂に変わりました。今迄とは違って、国際会議や学術研究報告会などにも利用出来るようにということで、椅子席にはノートなど記録するのに便利な可動式テーブルが引き出せるようになっています。

以前、入口の東側に展示されてきました中山画伯の絵筆や絵の具なども、廊下の壁面に設置されました。また、講堂の入口左側の壁には、この度、神戸大学基金の六甲台講堂修復のために、ご寄付を頂いた方々と、私たち財団法人神戸大学六甲台後援会に、平成16年の呼びかけ以降ご寄付頂いた(ともに金額10万円以上)方々のお名前を銘板の形で掲示するようになりました。昨年の10月31日以降、まだ六甲台講堂をお訪ねにならなかった方々は、どうか是非一度ご来訪ください。

この講堂の修復は、本誌前号でもご報告申し上げましたように明治42年に神戸高等商業学校を卒業された出光佐三さんのお名前を付した「出光佐三記念六甲台講堂」となりました。同氏が卒業されて

100周年になることを記念したことになります。私どもが、皆さんにこの講堂修復のための神戸大学基金へのご寄付をお願いして以来、凌霄会員から1億1千万円を超えるご寄付を頂いたのと、わが六甲台後援会がこれとは別に1億円寄付させて頂いたのに、出光興産株式会社からの創業者を記念したご寄付を加えると、この度の修復は、凌霄会員の縁で出来上がったことになり、大変慶賀に耐えられません。皆さん本当にありがとうございます。

11月29日(日)にも、経営学研究科と現代経営学研究所の主催で「愚直の経営」と題する講演とシンポジウムが開かれました。基調講演は花王株式会社の前社長・会長であった後藤卓也相談役がなされ、そのあと本学経営学研究科の三品和広教授と後藤さんと本学経営学研究科の加護野忠男教授との鼎談の形で内容豊かに展開されました。聴講者は関西からだけでなく、東京からも見えていました。こういう企てが出来ようになったのも、講堂修復のお蔭です。

ところで、今回の講堂修復でもう一つご報告しておかねばならないことがあります。それは講堂の壁画を描いて頂いたあの中山正實画伯の奥様時子さんが、12月2日(水)午後、お供の方と一緒に来学され、修復された講堂の壁画と図書館の壁画および図書館に掲げである中山画伯の油絵をご覧頂いたことです。奥様は折しも100歳におなりで、多少ご不自由にはなっておられました。本心に懐かしく今は亡き中山画伯の作品を感慨深くご覧頂きました。大学側では、田中康秀副学長はじめ社会連携課の方々、堀功郎・柿聰両凌霄会役員、六甲台後援会の海野興治事務局長、神戸大学百年史編集

室の野邑理栄子講師が応接をさせて頂きました。奥様には大変喜んで頂き、私どももほっといたしました。なお、この日は、新野理事長も、大学本部の安藤幹雄学長補佐も公務のために応接することが出来ませんでした。この度のご来学のきっかけは、奥様の姪御に当たる向井春子さんを新野理事長が以前から存じ上げており、一般の講堂修復の資料を向井さんを通じて奥様に差し上げるようになったからでした。先日、向井さんからの理事長宛のお手紙によると、奥様は文字通り喜んでくださったようです。

ロイ・スミス館が兵庫県近代建築百選に

この度、六甲台後援会が事務室にも使用しているロイ・スミス館が、「兵庫近代建築百選」にノミネートされました。わがスミス館は、ご存知のように昭和10年に竣工した2階建ての洋式木造建築です。詳しいことは、以前本誌372号の本欄で紹介しましたので省略しますが、池もある立派な庭園を持ち、2階部分は今も、法・経済・経営、経済経営研究所および国際協力研究科の招へいする外国人研究者2家族が長期滞在出来る宿舎として使用されています。また1階には少人数なら使用可能な会議に使える部屋もあります。

六甲台後援会へのご寄付についてのお願ひ

格付けは、事業会社だけではありません。大学のランキング付けもますます盛んになりました。朝日新聞社は早くから、かなり分厚い1冊の本にして毎年発表していますし、「週刊ダイヤモンド」や「週刊東洋経済新報」なども定期的にかなり詳しい発表をするようになりました。英国のタイムズ紙も「Guide of the Worlds Top

Universities」という表題で世界中の大学ランキングを1冊の本として毎年出版するようになりました。また中国でも、これとは別に世界中の大学ランキングを発表する試みが出てきました。さらに、つい最近も「ブレジデント」という月刊誌までこうしたランキングを取り上げるようになり、神戸大学は社長輩出率では、京大、一橋大、慶應大、東大に次ぎ第5位、役員輩出率では、右の4大学の次に名大がきて、神戸大学は6位、1千万円以上の年収者は7位、といった数字が並べられていました。

有名なある脳科学者の説明によると、人間の脳は、自分が生まれたり育ったりしたところを愛する本能を持っているようです。卒業生の皆さんが大学だけでなく、自分の学んだ母校に愛着を持ち、母校全体や母校の教職員や学生諸君の評価が高くなることにある種の喜びを覚えるのは、その意味では人間の本能的な心の働きかもしれません。最近も経済経営研究所長の宮尾龍蔵教授が日本銀行の政策審議会委員に推薦されたという新聞報道に関して、多くの卒業生から喜びの連絡を頂きました。そういう意味でも、出身学部的发展は嬉しいことに違いありません。わが六甲台後援会の設立の目的は、まさに、それを推進することにあります。私たちは、それもあって、ことに平成16年以來、皆さんのご協力を強く要請してきました。幸いにして、最初に書きましたように、六甲台講堂の修復も完了しました。しかし大学の評価は、ハードの充実だけでは高まるものではありません。そこで活躍されている教職員・学生諸君の輝かしい業績の達成が何よりも肝要です。わが六甲台後援会は、それに役立つ

仕事をこれからも懸命に遂行する覚悟です。そのためにも、どうか皆さん、金額の大きさは問いません。問題はどれだけ多くの方々か思いを同じくして、母校の発展を支えてくださるかです。どうかよろしくお願いいたします。

今回はこうして今迄とは違う形でご寄付のお願いをさせて頂きました。それが、それというのも前号以降、皆さんからのご寄付のご通知が頂けなかったことも一因でした。ところが、こんなお願いを書いたあと、今迄何回もご寄付を頂いている匿名希望の方から2百万円を届けて頂きました。また、松岡三郎様(昭35・経済)からも10万円を頂戴しました。本当にありがとうございます。厚くお礼申し上げます。この方のように何回も支えてくださる凌霜人が幾人かいらつしやるのは、私どもの誇りでもあります。

最後に、いつも申し上げていますように、六甲台後援会へのご寄付につきましては税法上の特別措置のある証明書付きの領収書をお送りしております。六甲台後援会へのご寄付の送り先は以下の通りですので、どうかよろしくお願いいたします。

◎銀行送金の場合(銀行からの連絡が遅く、領収書送付が遅れないようにするため、お葉書でも電話・FAXでも結構ですから、送金のことについて事務局にご一報ください)

銀行名 三井住友銀行六甲支店

口座番号 普通預金口座 4069496

口座名義 (財)神戸大学六甲台後援会

◎郵便振替の場合(通信欄に卒業年次と出身学部をご記入ください)

口座番号 00980091116772
口座名義 (財)神戸大学六甲台後援会

〒657-0068

神戸市灘区篠原北町4-11-5

(財)神戸大学六甲台後援会事務局

電話・FAX (078) 86113013

中島良能さん(38歳)が 「魔笛」を指揮

9月26日(土)・27日(日)に「大和シテイオペラ・白鳥会第10回記念オペラ公演」が、神奈川県大和市の生涯学習センターホールで行われた。演目は、モーツァルトの歌劇「魔笛」。湘南エルアンサンブルを指揮するのは、中島良能さん。プロの指揮者である。

中島さんは在学中、オーケストラの指揮者を務め、卒業後は日本IBMに勤務。53歳の時に退職し、桐朋学園大に学び指揮者に転身したという異色。日本とヨーロッパで指揮者として活躍を続けている。

(U)